



(大阪東北部)

大阪・天満の東端部、旧淀川に臨む位置に大蔵省造幣局がある。
この地は、天正一二年（一五六五）に豊臣秀吉によつて招致された
天満本願寺の有力な推定地
である。本願寺は天正一九年
年に京都六条堀川（現在の
西本願寺の位置）に移るが、
一九九三年以来行なつてき
た発掘調査の結果、本願寺
が天満にあつた時期だけで
はなく、移転後にも大名屋
敷と考えられる大規模な屋

- 1 所在地 大阪市北区天満一丁目
- 2 調査期間 一九九七年（平9）七月～八月
- 3 発掘機関 財大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 豆谷浩之
- 5 遺跡の種類 近世寺院跡・城下町跡
- 6 遺跡の年代 安土桃山時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大阪・天満の東端部、旧淀川に臨む位置に大蔵省造幣局がある。

この地は、天正一二年（一五六五）に豊臣秀吉によつて招致された

天満本願寺の有力な推定地

である。本願寺は天正一九

年に京都六条堀川（現在の

西本願寺の位置）に移るが、

一九九三年以来行なつてき

た発掘調査の結果、本願寺

が天満にあつた時期だけで

はなく、移転後にも大名屋

敷と考えられる大規模な屋

大阪・天満本願寺跡

てんまほんがんじ

敷が営まれていたことが明らかになつた。天満は、慶長一九年（一六一四）の大坂冬の陣の際に戦場になり、右の屋敷もこの時に焼け落ちてゐる。大坂の陣後まもなく徳川幕府の直轄地となり、大坂町奉行所の与力屋敷などが設けられている。

今回の発掘調査は、造幣局貨幣課工場の建替に伴うものである。

調査地点は、大坂町奉行所与力の吉田家の屋敷地に含まれていたことが、文献史料から明らかになつてゐる。調査の結果江戸時代の廐土坑が数基検出された。木簡はこのうちの一基から計一〇点出土した。共伴する陶磁器から、一八世紀初頭頃の遺構と考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「 」

165×18×3 033

(2) •「 」石□入 藤□□〔兵衛カ〕

140×32×4 051

•「 」郎介□

126×20×4 033

(3) •「 」升五合入 九郎右衛門

128×18×4 011

•「 」 小介

128×18×4 011

(4) •「 」

128×18×4 011

「。 □□

(70)×25×4 019

・「大□□

・「□□□

(91)×21×3 019

・「△上今□村

・「△□□□

(85)×16×4 039

「△□□□□□

(108)×19×5 039

□□□

(105)×30×4 081

(10) 「通入」

157×84×4 065

(1)～(3)(7)(8)のように付札状の形態をとるものが多い。(1)は竹製である。(10)は、やや幅の広い板の中央に墨書したものである。端の数個所に釘孔が見られることから、箱などの一部と推定される。

今回出土した木簡は、墨書が不鮮明なものが多く、文字の確定できるものは少ない。

9 関係文献

(財)大阪市文化財協会『天満本願寺跡発掘調査報告』IV (一九九八年)

(豆谷浩之・鳥居信子)



(7)表



(3)表



(2)表



(10)



(1)